※ 11/17(火)朝５時 情報解禁。ご注意ください。

土ドラ10周年

『いま「余生」って言いました？』

東海テレビ・フジテレビ系全国ネット

2027年1月9日(土) よる11時40分スタート！

もう40歳？まだ40歳！？

平凡な「余生」を生きるはずだった私に、モテキ到来!?

芸能活動25年以上のキャリアを重ねた

磯山さやか、連ドラ単独初主演！



「恋すること」に年齢は関係ないでしょ？

「バツイチ」「子持ち」――自分に貼ったラベルをはがし

自分の幸せを、もう一度考えてみませんか？

「バツイチ」「子持ち」そんなカテゴリーに、とらわれない。
39歳、“ひとりの女性”として、もう一度輝き始める。

藤野玲奈、39歳。
大学卒業後、すぐに結婚し子宝にも恵まれたが、夫の浮気が原因で離婚。現在は高校2年生の息子と二人で暮らす。文具メーカーで働き、仕事もプライベートもそれなりにうまくいっている。
息子の成長を見守りながら、穏やかな今の生活を守っていく――それが玲奈の幸せだった。

「息子がひとり立ちすれば、どうせその先『余生』みたいなもんだから」

「はあ？いま『余生』って言った？」

まさかの「余生」発言で、同級生の親友たちに驚かれながらも、これからの人生を“現状維持”に決めていた玲奈。

しかしある日、祖母の妹で82歳のトミ婆に、彼氏ができたと聞く。

「好きなの、もう止められないのよ」「恋の力かねぇ……」

年齢に関係なく恋に心を躍らせ輝いてみえるトミ婆の姿に、玲奈の心がざわつき始める。



「バツイチ」「シングルマザー」「いたって地味」「アラフォー」――。
恋することに後ろめたくなる必要なんてない。

そして玲奈は、心の奥にしまっていた思いを口にする・・・

「私、恋してもいいかな…」

大学時代の憧れの先輩・白澤との再会をきっかけに、止まりかけていた玲奈の人生が動き始める。
さらに、新入社員・緑川や同僚の黒岩、復縁を迫る元夫・赤堀まで、次々と目の前に男性が現れる。

恋をすることで、忘れていた胸の高鳴りを取り戻し、少しずつ輝きを増していく玲奈。

「何年ぶりの恋愛だと思ってるの」「お家デートってことでいいのかな？」

しかし、“母親”である自分と、“ひとりの女性”として生きたい自分との間で、玲奈は揺れ動いていく。
果たして、新しい恋を手に入れることができるのか――。

「余生」なんて、まだ早い。

これは、人生を“現状維持”と決めていた39歳の女性が、さまざまな葛藤を抱えながら
“母”である前に“ひとりの女性”として生きることを取り戻していく、恋と人生の物語。

年齢や立場にとらわれ、いつしか自分らしく生きることを諦めかけている人に

「まだ遅くない」と、もう一度前を向く勇気をくれるドラマ。

自分に貼ったラベルをはがし、一歩を踏み出す玲奈の姿が、頑張るすべての人の背中を優しく押す、
自分の人生を自分らしく歩むことの大切さを描く、**大人の恋と人生の物語**にぜひご期待ください。

バラエティや朝ドラなど多彩なジャンルで活躍している

磯山さやか、連続ドラマ単独初主演！

『「自分も動き出していいんだ」と、もう一度前を向くきっかけになれたら』





『いま「余生」って言いました？』２巻

※「©アキヤマ香／講談社」書影使用の際、表記必要※

藤野玲奈（ふじの れいな）（39）：磯山さやか

・文具メーカー「タチバナステーショナリー」のマーケティング部に勤めるシングルマザー。
・11年前に離婚し、高校2年生の息子・修をひとりで育ててきた。
・職場では「藤野ママ」の愛称で、困っている人がいれば率先してサポート。
・一方で、何にでも頭の中でラベルを貼って整理する「ラベリング」のクセがあり、自分自身のことも「バツイチ」「シンママ」「いたって地味」などとカテゴリー分けしている。これが玲奈なりの人生を安定させるための“心の整理術”。
・40歳目前、息子の自立も見え始め、その先の人生は「余生」だと親友に打ち明けるが、82歳のトミ婆の恋をきっかけに、玲奈の“恋する気持ち”が再び芽生える。さらに仕事では、突然、新企画のチームリーダーに抜擢。
仕事も、恋も、これまでの“現状維持”から大きく動き始めることに――。

磯山は、2000年のデビュー以来、グラビアアイドルとして人気を集め、バラエティ番組やスポーツ番組のMCなど、幅広いジャンルで活躍。親しみやすいキャラクターと明るい笑顔で多くの人に愛されてきた。近年は、NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』や、フジテレビ『嘘解きレトリック』、NHK連続テレビ小説『風、薫る』などに出演。さらに、テレビ東京『夫よ、死んでくれないか』ではトリプル主演を務めるなど、俳優としても活躍の幅を広げている。
芸能活動25年以上のキャリアを重ねてきた磯山が、本作で待望の連続ドラマ単独初主演を務める。

磯山さやか　コメント

Q：オファーを受けた時の気持ちと意気込みは
オファーをいただいたときは、「私ですか？」という驚きがありました。キャリア 25 年を過ぎたこのタイミングで主演のお話をいただけたことは、本当にありがたかったです。
あまり力を入れすぎないことを意識していこうと思っています。

Q：原作を読まれた感想は
恋愛ものではありますが、すごくリアルな部分もあれば、憧れる部分もある作品だと感じました。
私は結婚していませんが、年齢や家庭環境によって、恋愛に対する捉え方は変わってくると思います。
主人公の玲奈の気持ちも分かりますし、「年齢なんて関係ないよね」という考え方にも共感できます。
最終的には、恋愛に限らず、何かを始めることに年齢は関係なく、自分次第でいつからでも挑戦できるのだと、背中を押してもらえるような作品だと感じました。このメッセージが、皆さんにも届いたらうれしいです。

Q：主人公・藤野玲奈を演じるうえで大切にしたいことは。
真面目で一生懸命な、とてもピュアな女性だと思います。自分や家族のことを深く考える一方、職場では周りをよく見ていて、まるでお母さんのような存在。「そこまでしなくてもいいのに」と思うほど世話を焼くのも、無意識に周りを気遣える優しさがあるからだと思います。
演じるうえで特に意識したいのは、息子への愛情です。息子と二人で歩んできた歴史をイメージしながら、自然な親子関係を表現できたらと思っています。
効率よく物事を進めたいところや、場の空気をよくするために周りの世話を焼くところ、自分の感情を抑えるところは、私自身と似ていて演じやすいと感じます。芯が強い一方、恋愛には不慣れで、気持ちが動くと弱さが出てしまう。そんな玲奈の人間らしさやピュアなところにも、ぜひ注目していただきたいです。

Q：玲奈の特徴でもある「ラベリング」にちなんで、ご自身にラベルを貼るとしたら？
自分より周りのことを考えてしまうので、なかなか自分を客観視する機会がないのですが、強いて言えば「気遣い」ですかね…周りのために動いてしまうことが多いですし、それが苦ではなく、いつの間にか当たり前になっているところもあります。自分よりも周りを優先してしまうタイプなのだと思います。
あとは、「気分屋」と「ビビリ」かな。

Q：原作ファンの皆さま、そしてドラマを楽しみにしてくださる視聴者の皆さまへメッセージ
ラブストーリーとして楽しんでいただける作品ですが、それだけではありません。人生において、何かを始めるタイミングに年齢は関係なく、いつからでも挑戦できるし、楽しめるのだということを伝えてくれる作品です。
玲奈のように、「もうここからは変われないかな」と思っている方が、「自分も動き出していいんだ」と、少しでも背中を押されるようなドラマになればうれしいです。
恋愛だけではなく、一人の女性の生き方や人生もしっかりと描かれている作品なので、そこも感じていただけたらと思います。

「余生」なんて、まだ早い。まだ 39 歳でしょ!?
“自分らしく”生きていく、恋と人生のリスタート物語が映像化！

原作は、アキヤマ香氏による漫画『いま「余生」って言いました？』(講談社「BE・LOVE」所載)。
「バツイチ」「子持ち」――いつしか自分自身に貼ってしまった“ラベル”にとらわれていた 39 歳のシングルマザーが、“ひとりの女性”としてもう一度人生をリスタートする恋愛ヒューマンドラマ。胸キュン必至の恋愛描写とともに、年齢や立場に悩むリアルな心情、何気ない日常を丁寧に描き、多くの読者の共感を呼んでいる。
作者のアキヤマ香氏はこれまでも、ドラマ化された『長閑の庭(のどかのにわ)』など、年齢や立場を超えた多彩な恋愛模様を、繊細かつ魅力的に描いてきた。
「余生」なんて、まだ早い。年齢に関係なく、人生はいつでも変えられる――。
もう一度、自分らしく生きること、恋をすることの希望を与えてくれるコミックが、このたび映像化へ。

原作



『いま「余生」って言いました？』１巻



『いま「余生」って言いました？』３巻



『いま「余生」って言いました？』４巻

※「©アキヤマ香／講談社」書影使用の際、表記必要※

原作　アキヤマ香　コメント

Q:本作を通して描きたかったことや、作品に込めたメッセージは

人は無意識にでもラベリングし、カテゴリー分けします。私自身もあまりしたくないと思いつつ、他人や自分さえもラベリングしている時があります。それは自分を守るためでもあるかもしれません。
でも、その時に“普通とはなんだろう？”“このラベリングは必要なのかな？必要なら何故？”と、私が描きながら考えたいなと思いましたし、読者の皆さんも共感するところがあったら嬉しいなと思い描きました。

Q:ドラマ化されることについて、どのようなお気持ちでしょうか。

私の作品がドラマに関わる皆さんの中にあるクリエイティブを掻き立てて、「制作して楽しかった」「演じて楽しかった」と思っていただけたら、こんな嬉しい事はありません。

Q:主人公の藤野玲奈を磯山さやかさんが演じると聞いて。

色々な事で悩みつつも前に進んでいける頑張り屋さんな等身大の女性を演じていただけそうで嬉しいなと思いました！
玲奈を演じることを思いっきり楽しんでいただけたら嬉しいです。

Q:ドラマを楽しみにしている視聴者の皆さまへ、メッセージをお願いいたします。

ドラマでは原作にないアレンジがあり、脚本をとても楽しく読ませていただきました！
ぜひ漫画とドラマ、読み比べながら、違いを楽しんでいただければと思います。
演者が素敵、ストーリーが面白いなど、どんな感想でも嬉しいです。
忙しい毎日、ドラマを観た時間が皆様のエネルギーチャージの時間になりますように。

＊＊＊
鵜澤龍臣プロデューサー　コメント
企画にあたり、39 歳のシングルマザーの方々にお会いし、恋愛観や日々の生活で感じていることを聞かせていただきました。母親としての責任と、ひとりの女性として恋をしたい気持ちの間で揺れる思い。誰かに言われたわけでもないのに、自分自身で引いてしまう境界線。“母の恋愛“には、令和の今でも説明しづらい難しさがあるようです。
原作者のアキヤマ香さんが描くのは、そんなアラフォー女性の本音や葛藤を丁寧に見つめる物語。玲奈の前に次々と現れる多様なタイプの男性キャラクターたちのリアルさも、大きな見どころです。
主演の磯山さやかさんは、恋に戸惑うひとりの女性を等身大の魅力で表現していただいていて、親しみやすい明るさの中にふと見える人間らしい繊細さと芯の強さは玲奈そのもの。さらにそれを取り巻く豪華キャストの皆さんが、どんな彩りを加えているのか……ぜひお楽しみください。
恋も、仕事も、母であることも。何かを諦めるのではなく迷いながら、進化しなくても変化しながら、自分らしい幸せを探していく。このドラマが今を生きる多くの人の心に届きますように。

あらすじ

39 歳のシングルマザー、藤野玲奈（磯山さやか）は、高校 2 年の息子・修と穏やかに二人暮らし。
「息子がひとり立ちすれば、その先『余生』みたいなもの」と話し、親友のみゆきや麻美を驚かせていた。
しかし 82 歳の親戚、トミ婆に彼氏ができたと聞き、心がざわつき始める。そんな時に大学時代の憧れの先輩と仕事で再会。何を考えているかつかめない新入社員からはありえない言葉をかけられて――。止まっていた恋心が再び動き出す！

放送概要

タイトル
土ドラ『いま「余生」って言いました？』

放送日時
2027年1月9日(土)～2月27日(土)予定＜全8話＞
毎週土曜日よる11時40分～ 東海テレビ・フジテレビ系全国ネット

スタッフ

【出演】	磯山さやか
【原作】	アキヤマ香『いま「余生」って言いました？』(講談社「BE・LOVE」所載)
【脚本】	柴田泉　ひかわかよ
【音楽】	中村巴奈重
【企画】	稲吉豊(東海テレビ)　伊藤真保(東海テレビ)
【プロデューサー】	鵜澤龍臣(東海テレビ)　池澤辰也(テレパック)　三本千晶(テレパック)
【演出】	池澤辰也(テレパック)
【制作】	東海テレビ　テレパック

本件に関する問い合わせ先

東海テレビ　東京編成部　　伊藤光輝　　電話 03(3503)1391
メディアマーケティング部　　堀田亮子　梶田綾音　　電話 052(954)1126